

## ■R01.05.07 市長定例記者会見内容

日時 令和元年5月7日(火)午前11時～正午

場所 庁議室

出席 市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、企画調整課長、地域創生部交流推進調整監、農林水産部長、市長公室長  
酒田記者クラブ 8社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、SAY)

## ■内容

市長発表事項

なし

## ◎フリー質問

### 【ダイヤモンド・プリンセスの受け入れを終えて】

記者／ダイヤモンド・プリンセスの受け入れを終えて、前回から改善してよかった点、新たに見えた課題や今後改善すべき点などがあれば聞きたい

市長／受け入れ、おもてなし、観光施設・商店での販売については、前回の課題を踏まえて良くなったと思う。夢の倶楽には3,200人が来てくれた。英語表記の店も増えてきた。高校生によるおもてなし(英語の案内など)、高い評価を得た。酒田のみならず、庄内地域や公益大などにも広げたい。乗客の感想のなかで漏れ聞こえてきたものとしては、まち全体で歓迎してくれてよかったというものがあった。一方、中心商店街での店の誘客が消極的との声もあった。情報発信に積極的に取り組めば、もっとお金を使ってもらえたのではないかと思う。課題としては、タクシーの待ち時間が1時間を越えた例があった。タクシーの絶対数が足りなかったのではないかと思う。地元のタクシー会社だけで対応するには限界がある。そういう面では、ニーズに答えきれておらず、反省点である。シャトルバス運行、店の開店時間を早めるなどの対応に関しては、過去に学んで準備できたので良かった。もうひとつ課題として挙げられた、雨天時の対応として、雨よけとしてのテントの増設など検討していきたい。10万人規模の都市としては市民に十分頑張ってもらって、おもてなしの気持ちを伝えられたと考えている。

記者／タクシーに関する具体的な対策は

市長／他地域のタクシー会社に声を掛けて対応してもらおうなど。またタクシーだけにニーズが集中しない工夫もできるかもしれないが、ツアーの面で船会社との協議も必要になる。タクシーの運転手も少ない。短い期間に集中的に来るわけなので、厳しい部分もある。鳥取県の境港市のように年間を通じて多くの客船が来航する状況であれば準備できるが、酒田港は年間数回なので難しい部分あり。鶴岡や他地域から来てもらっても実際乗るとは限らない

記者／山居倉庫で、工芸品を買っている人多かった。磯草塗りなど、伝統工芸への支援などは考えるか

市長／難しい部分がある。収益が上がることで後継者も出てきやすくなる部分もあると思うが。先日野村萬作氏が来られた時に、土門拳の写真をお渡しして喜ばれた。ここに来なければ手に入らないものがあればいいのだが、その点で酒田は遅れていると思う。鶴岡のキビソのようなものがあればいいのだが。磯草塗り、傘福などが現状。船筆笥は高すぎる。クルーズ船が来た時に、商店の人がどのように下船した観光客に対してセールスしたかわからないが、もっと積極的にやってもらえれば、効果も上がると思う

記者／乗客数と、外国人、日本人の割合を教えて欲しい

商工港湾課港湾主幹／乗客数は2,700人、クルー1,000人、乗客の割合は外国人80%～90%、日本人10%～20%

記者／かなりの多くの人が出たか

商工港湾課港湾主幹／2,650人、約7割が出た

市長／米沢の道の駅のようなものがほしくなる。山居倉庫は非常に混み合っていた

記者／道の駅整備計画は

市長／決まっていないが、商業高校跡地周辺や、空港インター周辺に話はある。空港は滑走路延長の話もあるので状況を見ながら。商業高校跡地に関しては、機能を持ち合わせた観光誘客施設になればいい。具体的な構想としては固まっていないのでこれから。

記者／学生ボランティアがかなり参加していた。がんばってはいるが、なかなか伝わっていない感覚を受けた。学校単位ではやっているが、市として学生たちをサポートするやり方はないか

市長／酒田南高校はコースを設けてやっている。酒田東高校、酒田西高校、酒田光陵高校なども動きある。冊子など揃えていきたいとは思っている。今年度国際交流協会の立ち上げが予定されており、協力を仰ぎながら整備していきたいと思っている

記者／外国人がかなり詳しい質問をしていた。「清水屋は高さ何メートル？」とか

市長／クリスタルクルーズというラグジュアリークラスのツアーを企画している会社の関係者と話しをする機会があったが「酒田の素材は認めるが、酒田の街の魅力を英語で伝えられる人が多くいないと、ラグジュアリークラスの客はリピーターにはなってくれない」と言われた。ハードルは高いが、取り組んでいきたい

#### 【10連休中の市の観光関係の対応に関して】

市長／10連休、市内取材していたと思うが、足りないと思った点はあるか

記者／松山祭り、インターネットで調べようとしたが前日にも関わらずヒットしなかった。酒田さんぽに最低限のことしか掲載されておらず、結局有益な情報が得られなかった

市長／いい祭りだが、準備と情報発信足りなかったのだと思う。甲冑着付け体験、荻野流砲術など素材はいいが使いこなせていない。

副市長／旧3町のイベントも酒田さんぽに載るようにしないといけない

【酒田まつりについて】

記者／酒田まつり、会場分散していて集客が見込めると思うが、以前導入していた「ふるさと休日」に関してはどうか。19日が日曜日だが

企画調整課長／市内、遊佐町内の小中学校が全て休みになる

企画部長／空港でのPR活動もやっている

記者／人口減少が問題となる中、帰省で経済効果を生むのもひとつの手。まつりのときに休めて帰ってくれば、地元の友達に会うことができるなど。個人的に、村山地方から知人を酒田まつりに合わせて招いているが、祭りの期間中、夜間に中心市街地付近で営業している飲食店が少ない。行政として、祭りに泊まりで来てもらう仕掛けをしている中で、飲食店がやっていないというのはもったいないのでは

市長／祭りに出ているのかもしれないが、悩ましいところ

記者／観光誘客の経済効果を高めるために重要な点として、泊まってもらえる観光素材の創出がある。その点は酒田はできているのだから、宿泊施設や夜に食事できる店についても考えていく必要があるのでは

市長／酒田まつりは露店が並ぶので、中心商店街に関しては開けていても商売にならない部分があるが、中心商店街から少し離れた地域なら可能性はある

記者／地域の外から来るお客さんは、酒田の海鮮を食べたいという方が多い。有名な店ほど埋まってしまうという状況もあるようだ

【いか釣り船団、いかのまち酒田について】

記者／いか釣り船団に関して、いかのまち酒田の商標登録はどうなっているか

農林水産部長／3月に「酒田船凍イカ」で商標登録している。いか釣り船団出航式において発表するつもり

記者／その前にプレスリリースほしい

農林水産部長／了解した

記者／どこの店に行けばどういうイカ料理が食べられるかをお知らせしたほうがいい

市長／その通りだと思う。飛島料理では以前に同じような取り組みをしている

記者／他地域の話だが、呼子では、生イカの刺身を食べられるということでPRしている酒田ではどうか

市長／酒田は船凍イカを売りにしているので、生イカとは区別していかないといけない。生イカも獲れるので、PRできればしたい

記者／鶴岡のおばこサワラは、漁獲量が少ないにも関わらずブランド化に成功している。イカの漁獲高は相当なもの。県のブランディング戦略とうまく絡めていけないものか

農林水産部長／魚は冷凍より生のほうがおいしいという観念があるが、イカに関しては実

は冷凍の方がおいしいし、アニサキス（寄生虫）の問題もクリアできるという利点がある。そのような点を踏まえた上で県のブランド戦略と絡められないかを検討したい。呼子では生でイカを食べるが、それと張り合っても仕方ない。船凍イカの良さを生かしたい  
副市長／実際に食べ比べてみて船凍の方がおいしかった。熟成が進むので  
記者／「イカ」といえば生のイメージ、イカといえば函館というイメージある。それを打破するためには、いかにPRするかだと思ふ。出来上がったイメージを覆すのは難しい  
市長／船凍イカに関しては、必ずしも酒田沖で獲れるわけではない。北海道から島根県までの水域で獲れたものを、山形飛鳥のように工夫を凝らしてパッケージングして売ってくれるのはありがたい。函館など他のイカのまちとは異なったイカのまちとして売り出すには、酒田に来て食べてもらうという方策をメインにするのは難しいのではないかと思ふ。船凍イカを酒田で加工して他地域に売り込むやり方の方が合っているのではないかと個人的には思ふ

記者／さまざまな戦略でやっていかないと、中途半端で終わってしまう可能性もある  
市長／それはその通りだと思ふ。ある意味漁業振興のようでもあり、企業振興のようでもある。船凍イカがどんどん入ってきて加工業者が潤い、地域への経済波及効果が大きくなる。漁家のみ、地元の料理屋だけで議論するのではなく、外への売り込み、企業振興などいろいろやっていきたい。いずれにせよイカが入ってこないと話にならない。酒田に本拠地を置く企業が行う事業展開を拡大するための仕掛けとしていろいろやっていきたい

記者／船団が獲っているイカの何%が酒田港に水揚げされているかのデータはあるか  
農林水産部長／日本全体のイカの漁獲量と酒田の水揚げくらいのデータはあるが、はっきりとしたデータはない

記者／出航式に参加するいか釣り船団でさえ、酒田港には数%しか水揚げしていないと思ふ。データがあった方がいい

農林水産部長／調べてみる

市長／函館と八戸などは強敵。だが酒田港があることで寄ってもらい、水揚げしてもらえる。クルーズ船もそうだが、知恵を絞ることが重要。地域のつながりで、なるべく酒田に寄ってもらえるようになれば、企業の事業展開も広がるのではないか

#### 【子育て関連施設について】

記者／三川町と鶴岡市では、子どもが遊べる施設を新設した。酒田は交流ひろばに施設があるが、他に比べて狭いと感じる

市長／財政状況を見ながらになる。欲しいことは欲しい。中町に現施設を作ったときは、ほかにはなかった。冬場も含めて子どもたちが遊べる施設が欲しいという声はあるが、現在の財政状況ではなかなか難しい

記者／コミュニケーションポート内にそのような施設をつくることは想定しなかったか

市長／しなかった

記者／子育てを軽視しているわけではないと思うが、なかなか子育てに関するワードが市長の声から出てこないと感じている

市長／港湾地域の上屋の半分を市の施設として整備する計画があり、子どもたちが遊ぶ施設を想定したが、ちょっと中途半端な面積。子育て世代のための施設は常に頭にあるが、事業費、スペースの問題があり、難しい

企画部長／コミュニケーションポートにも読み聞かせの出来るスペースを設けるなど、子育て世代を意識したつくりとなっている

#### 【行政監査における指摘について】

記者／行政監査で、市職員の防災意識の低さが指摘されていたがどうか

市長／監査の指摘事項がマスコミに出ること自体がすごいことだと思う。意識が低いということ自体は問題である。しかし、変な受け取られ方をされると困るのだが、酒田はそれほど災害が多い地域でもないし、正直、1,700 近くある自治体の中においてはそんなものなんだろうと思う。ただ、それでいいとは思っておらず、我々は日ごろから危機意識を持って日常業務に携わらなければならない。しかし、今回そのような点について行政監査でしっかり指摘してもらい、その指摘事項が新聞に載ることで、我々も気付く部分はある。反面教師ではあるが、気を引き締めなければならないと思いを新たにしたところである。記事を見て我々も「はっ」と思ったし、実際はそうではないと思うが、酒田市だけが危機意識が低いと思わせる記事の書き方については、逆にいいと思った。あの記事を見て市職員が意識を変えなかったら、市民の付託を受けた意味がない。いい指摘をしてもらったと思っている

記者／改善についてはどのように考えているか

危機管理監／支部指定職員、危機管理課兼務職員として職員を指定しているが、当該職員を対象にした研修も行っている。去年の 8 月の豪雨を受けた上での市職員を対象にしたアンケート結果については（意識が低く）残念だったが、回答率自体が低かったという点も考慮しなければならない

市長／ネームプレートに全職員の災害時の役割書いてあるがそれでも意識が低い

危機管理監／8 月に災害対応があったばかりで、残念。ポジションにより認識の違いはあるが、市職員には意識をしっかりとってもらいたいし、今後も支部指定職員などには研修などできっちり浸透させていきたい

市長／災害時の職員の招集システムをつくった。それまでは震度 4 で自主登庁だったが、今は招集の連絡が行く。

危機管理監／自分が登庁する必要があるかどうかの判断をする意味でも、職員の意識を高めていかなければならない

記者／職員がマニュアルを常に携帯していないという点については問題ではないのか

市長／建設部の職員は、ポケットに入るマニュアルを持っている。今後はあってもいいとは

思う。スマホに取り込めるような仕組みも必要かもしれない

記者／庄内沖は津波の空白域と言われている。一番敏感であるべき酒田市の危機意識が低下しているのは問題ではないか

市長／住民については、地域によっては高いところもある。東平田のように断層に近い地区などは特に高い

記者／財政の監査結果も出た。たいていの場合は概ね良好という評価が下されるのと思うが、酒田市の場合は、費用の流用など、かなりの点が指摘事項に挙がっている。そのような現状を見るに、ガバナンスが働いているのか疑われる

市長／監査委員については、議選の委員がおり、加藤代表監査委員は市のOBである。監査委員がしっかりしていれば、第三者による監査は必要ないと思っている。外部監査については費用も多くかかる。本市のような小さな自治体は、監査委員がしっかり機能し、指摘された事項に対ししっかり市が改善できればスムーズに回っていくが、これまではできていなかった。監査委員には指摘するところはしっかり指摘してもらいたい。指摘されたら各部局で真摯に受け止め、それがどのように改善されたかを報告するように求めている。その点はこれからも徹底していきたい。お互いに馴れ合いでは税金を使わせてもらっている組織として市民の皆さんに申し訳ないので、受け止めていきたい。監査委員には、今後も遠慮なく指摘してもらいたいし、そういうことがあれば、報道機関に情報提供してもらっていいと思う。市の広報でも監査の結果は載せていない。本当は載せなければならないがやっていない。そういう面では、報道機関には市民の代表としての機能も発揮していただき、監査結果について報道してもらうことで、行政・まちづくりに対する市民の関心も高まるのと思う。そのようなことが、投票率低下など、深刻な問題の解決につながっていくのではないかと

記者／先輩から見ての今の市役所の評価という意味合いが、指摘の中にはあったのと思う。馴れ合いという話があった。市長も市役所出身で、周りから見れば市役所の身内意識とか、市役所一家のような見方をされる中で、厳しさが足りないのではないかとという監査委員の思いもあっての厳しい指摘だったのではないかとと思う。市長は次期選挙にも出馬表明しているが、その点についてはどのように考えるか

市長／馴れ合いという面も無くはないと思う。外から見ると、市役所はぬるま湯だとか、自分たちだけであまり波風が立たないように業務を行っていると思われるかもしれないし、それはわからなくはない。しかし一方で、市役所は市役所として、公務員としての本分にのっとなって、公平に平等にさまざまな施策を行っているという自負もある。両方の面があると思う。市職員の仕事に関して、自分はプライドを持ってやってきた。800人近くいる市職員の多くは同じ意識でやってくれているとは思っている。そうでない職員がいれば、それはきちんと直していかなければならないと思う。ただ、情緒的な思いだけではなく、実際の細かな仕事のやり方について監査委員に指摘されたものに関して、今の時代に合わないとか非効率だというのは直していかなければならない。そういう面からいうと、これまで「なあなあ」でやってきた部分についてはしっかりメスを入れていかなければならない。ただし、

きちっとやっている部分はなかなか外に出ないものだが、そういう部分についてはこれからも堅持していかなければならない。監査委員は自分の大先輩でもあるし、信頼関係の元で、お互いの職責を果たせるのは大変ありがたいと思う。いい人に監査委員となってもらい、自分が思い描いた通りの監査をやってもらっていると思う

副市長／反省している。指摘事項が多いことに副市長として責任を感じ、何かできることがないか考えているところである。危機管理に関しては、危機管理監以下危機管理課にはしっかり対応してもらっていると認識している。年度当初の打ち合わせにおいて防災訓練のやり方を変えたという報告を受けている。これまでの訓練に比べてやるべきことが段違いに増えている。やる項目のリストアップも済んでいて、あとはやるだけの状態。これも監査の指摘を受けての対応である。防災に関しては、指摘の中から危機管理課がしっかりやっているとの記載もあり、監査委員からの応援という意味合いもあるものと認識している

以上